

平成28年11月10日

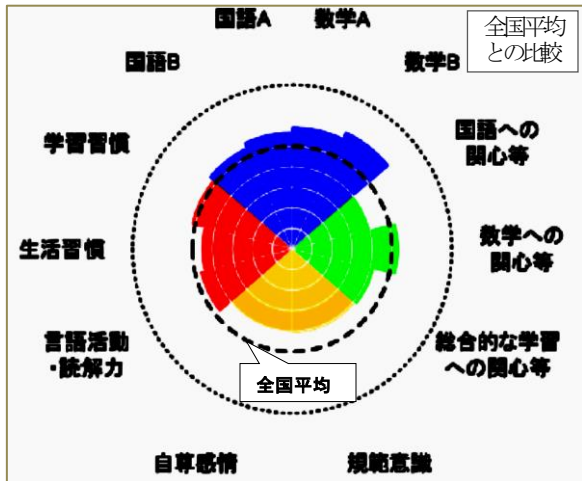
保護者のみなさま

豊能町立吉川中学校
校長 浅井 隆志

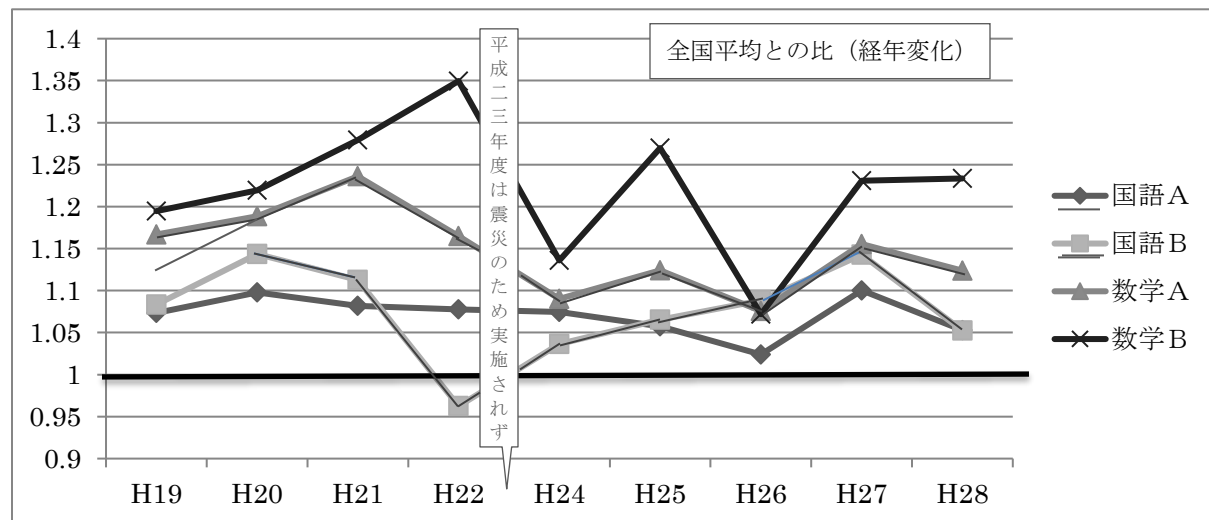
平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

晩秋の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、4月19日に実施いたしました全国学力学習状況調査の結果を分析いたしましたので、以下に報告いたします。

記



本年度は、国語 A、B、数学 A、B、の4教科の学力調査と生徒質問紙による学習状況調査を行いました。
学力調査は全教科とも全国より良好な結果でありました。ただし、この調査で得られた結果は学力の特定の一部であることにご留意ください。
85問からなる学習状況調査では、規範意識、自尊感情、総合的な学習への関心等、国語への関心等などの面で、全国より低い傾向にありました。



〈 正答率が全国と比較してやや下回っている問題 〉

- A 聞き手をどのように想定して話しているか、スピーチの内容を読んで答える。
- A 電話する内容の原稿を読み、伝えたいことを明確にするために付け加える言葉を答える。
- A 今までにないドクソウ的な考えだ。(漢字を書く)
- A 彼は忙しい仕事の合間を〔付けて、縫って、閉じて、縮めて〕私に会いに来てくれた。(正しい語句を選択する)
- A 「うさぎ追ひしかの山」(現代仮名遣いに直しひらがなで書く)
- B チラシの表と裏を見て(読んで)、そこにされている工夫とその効果を指定された3つの条件にしたがって書く。
- B 宇宙エレベーターについての説明文を読み、疑問に思ったことと、それを調べるために、図書館でどのようにして本を探すか、具体的に2つの方法を答える。

この設問以外は、国語 A、B の全問題を通じて、本校の正答率が全国の正答率を上回っていました。

〈 正答率が全国と比較してかなり上回っている問題 〉

- A 会長候補として、白羽の矢が〔立つ、刺さる、飛ぶ、向かう〕。(正しい語句を選択する)
- A 漢和辞典の「美」という字の説明を読み、「賛美」の「美」の意味として適切なものを選択する。
- A 意見発表会の題名の下書きと清書を見て、どのような点を意識して書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する。
- B 宇宙エレベーターについての説明文を読み、昇降機にはどのような特徴があるのか、まとめる内容として適切なものを2つ選択する。
- B 物語の一部を読み、展開に沿って主人公の様子を正しく並び替える。
- B 物語に書かれている石油ランプについての区鑑の説明を読むことで、物語中にあるランプに係る表現でよくわかるようになったことを、指定された条件にしたがって説明する。

〈 考察 〉

漢字や語句、古典についての知識に課題が見られました。言葉の知識は授業においても教科書ワークや単元別漢字帳などで日常から学習していますが、こうした知識を日常の会話などにおいてどれだけ使用するか、日常の生活の中でどれだけ補填できるか、ということが知識や理解の定着において大切なことです。

聞き手の立場や話の構成について考える力をつけることについても、日頃からの会話における部分が大きいことから、意見発表の機会や理解・納得を得るための情報を提示する機会を設け、それをお互いに評価し合うことで、より高度な思考に転じられるよう取り組んでいきます。

根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことについては、自分の考えをまずは設定すること。次に読み取った内容をいかに効果的に活用できるか。さらに応用力を付けるためには、日頃の授業内での設問に、どれだけ積極的に答えようと努力するか、が鍵になります。

学力を向上させるためには、与えられた課題を解決するだけではなく、自ら課題を発見しようとすることや、探究心をもってより深い学びにつなげようとする意識が必要です。その意識をもって解決に至るための見通しを立てること、そのために必要な情報を収集することが必要になります。情報収集にはインターネットを利用するだけでなく、図書を活用することも重要です。

今後、教科の授業だけではなく、総合的な学習の時間などでも、いろいろな情報収集の方法について考えを広げられるよう取り組んでいきます。

(2) 数学

〈 正答率が全国と比較してわずかに下回っている問題 〉

A 証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ。

この設問以外は、A問題、B問題とも全国の平均正答率を上回りました。

〈 正答率が全国と比較してかなり上回っている問題 〉

A 多角形の外角の和について、正しい記述を選ぶ。

A $\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同であるための条件として正しいものを選ぶ。

A 反比例のグラフから式を求める。

A 1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ。

B 校内大会の設定条件を変えたとき、1試合の時間を求めるための方程式をつくる。

B $x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する。

B A車を購入して10年間使用するときの総費用を求める。

B 2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同条件を利用して証明する。

B $DA:DC=1:2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する。

B 25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く。

〈 考察 〉

学習指導要領の領域別で見ると、A問題、B問題の「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」、全ての領域において、全国の平均正答率を上回っており、中でもB問題の「図形」「関数」「資料の活用」においてはかなり上回っていたことから、数学的な「基礎基本の力」、「活用する力」は全体的に定着していると考えられます。

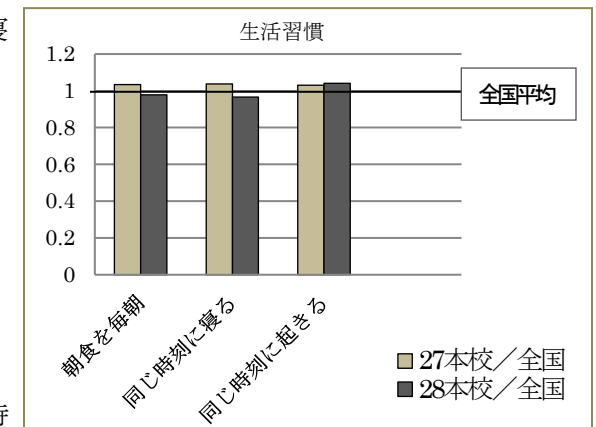
普段の授業の様子では、作図に関する問題や近似値を使った問題が不得意であったり、単元に限らず、記述式になると身構えてしまう生徒も多い傾向にあります。また、パターンに当てはめて考えられる問題はできる生徒が多いですが、そうではない問題、活用問題にはまだまだ課題があると考えられます。

そこで、今後の授業では、「生徒同士で教え合う」ことや、「自分の考え方を発表する場面をつくる」ことをとおして、理解度の向上、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上を図っていききたいと思います。また、たくさんの問題に触れることで得られる「生徒自身による気づき」も大切にしていきたいと考えています。既習事項をもとにして新しい学習を展開していくことから、新しい単元の指導に入る際には、その単元は下の学年のどの単元の学習とつながっているのか、今後、上の学年で学習することのどの単元の学習とつながっていくのか、ということについて、生徒がわかるように確認しながら学習を進めていきます。

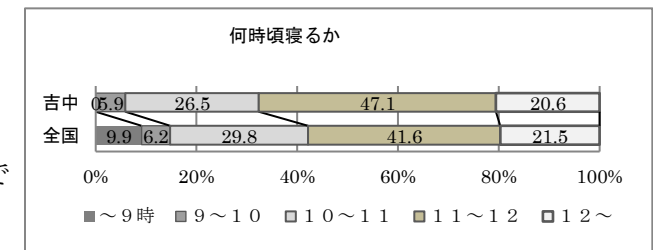
(3) 学習状況調査

〈 基本的な生活習慣・家庭での様子 〉

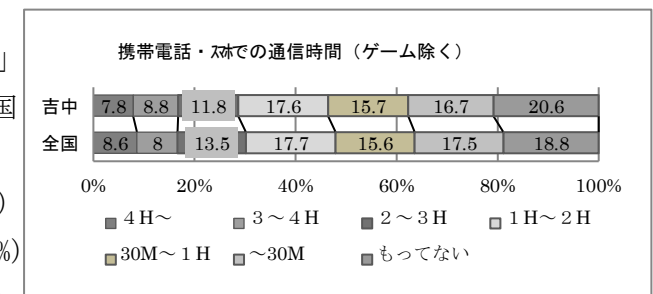
「毎朝朝食を食べる」「同じくらいの時刻に寝る」の質問に対する肯定的回答（「している」「どちらかといえばしている」以下同様）は全国よりわずかに低いながらもほぼ同様の回答状況でありました。「同じくらいの時刻に起きる」に対する肯定的回答は全国より少し高い回答状況にあり、全国との関係において大きな違いはなく、良好な状態にあります。



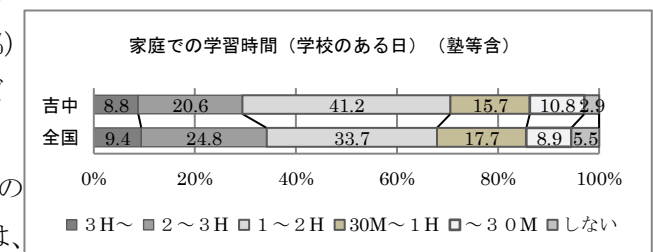
「何時ごろに寝るか」については、「午後11時以降、午前0時より前」が47.1%と最も多く（全国41.6%）、次いで「午後10時以降、午後11時より前」が26.5%（全国29.8%）、「午前0時以降」が20.6%（全国21.5%）でした。



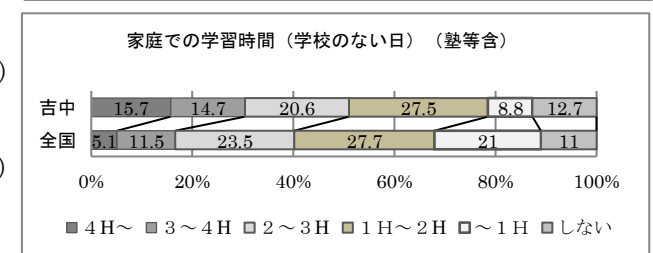
「一日にどれくらい携帯電話・スマホで通話やメール、インターネットをするか(ゲームは除く)」については「もっていない」が20.6%（全国18.8%）、「30分未満」16.7%（全国17.5%）



「30分以上1時間未満」15.7%（全国15.6%）
 「1時間以上2時間未満」17.6%（全国17.7%）
 「2時間以上3時間未満」11.8%（全国13.5%）
 「3時間以上4時間未満」8.8%（全国8.0%）
 「4時間以上」7.8%（全国8.6%）で、ほぼ全国と同じ状況でした。



「普段（月～金曜日）の授業時間以外での一日あたりの勉強時間（学習塾等含）」では、「3時間以上」8.8%（全国9.4%）
 「2時間以上3時間未満」20.6%（全国24.8%）
 「1時間以上2時間未満」41.2%（全国33.7%）
 「30分以上1時間未満」15.7%（全国17.7%）
 「30分未満」10.8%（全国8.9%）、「全くし



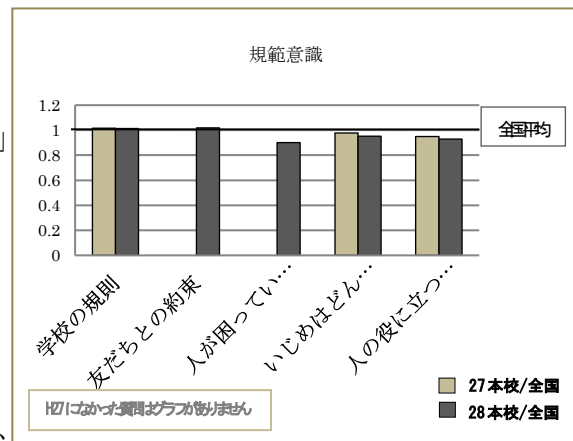
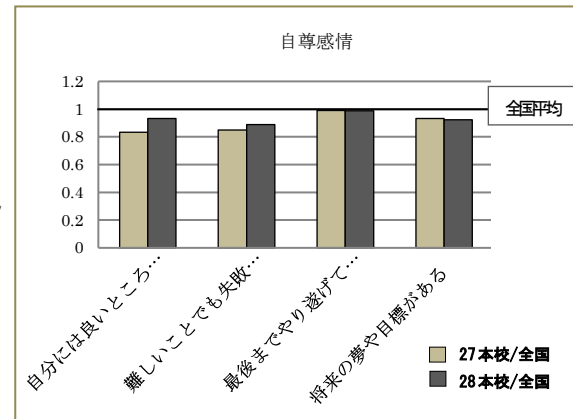
ない」2.9% (全国 5.5%)、であり、「学校が休みの日の一日あたりの勉強時間 (学習塾等含)」では、「4時間以上」15.7% (全国 5.1%)、「3時間以上4時間未満」14.7% (全国 11.5%)、「2時間以上3時間未満」20.6% (全国 23.5%)、「1時間以上2時間未満」27.5% (全国 27.7%)、「1時間より少ない」8.8% (全国 21.0%)、「全くしない」12.7% (全国 11.0%)、という結果でした。

〈 自尊感情・規範意識 〉

「自分には良いところがある」についての肯定的回答は 64.7% (全国 69.3%) でした。少し残念な気もしますが、一般的には自分に対して高い基準で厳しい評価のできる人は否定的な回答をする場合もあるようです。

「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」についての肯定的回答は 61.8% (全国 69.6%)、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」についての肯定的回答は 93.1% (全国 94.3%)、「将来の夢や目標がある」についての肯定的回答は 65.7% (全国 71.1%) という結果でした。これらの回答状況はここ数年来同じ傾向を示しています。日本全体で見ても、若者たちにこの傾向があり、国としての課題にもなっています。吉中でも課題としてとらえており、自分自身を意味ある存在、価値ある存在としてとらえ、主権者として、自分たちの世の中を創造していく希望と期待をもってほしいと願っています。

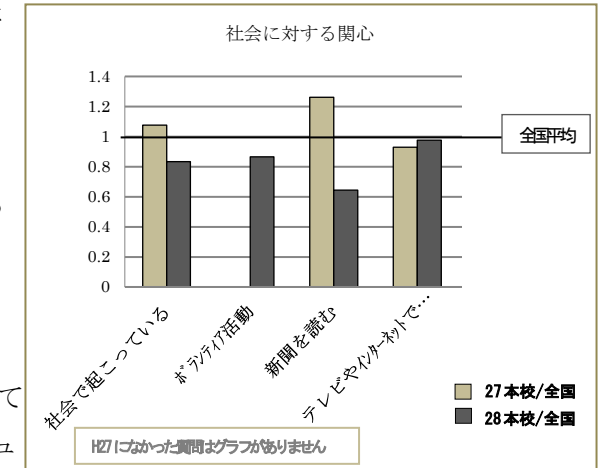
「学校の規則を守っていますか」についての肯定的回答は 96.0% (全国 94.7%)、「友だちとの約束を守っていますか」についての肯定的回答は 99.0% (全国 97.2%)、「人が困っているときは進んで助けていますか」についての肯定的回答は 75.5% (全国 83.8%)、「いじめはどんな理由があってもいけない」についての肯定的回答は 89.2% (全国 93.6%)、「人の役に立つ人間になりたい」についての肯定的回答は 86.3% (全国 92.8%) でした。学校の規則を守り、友だちとの約束を破らない吉中生の姿がうかがえます。一方で「人が困っているときは…」 「人の役に立つ…」 など、「人」という一般的な表現になると、距離が感じられるのか具体的な行動のイメージができにくくなるのか、その値は低くなります。また、「いじめ」については、「される側にも原因がある」という感じ方の強い人がいるようです。日常生活の中で、お互いをもっとよく知り合うことをとおして、



他者への理解を深め、この感じ方から脱却してほしいと考えています。

〈 社会に対する興味関心 〉

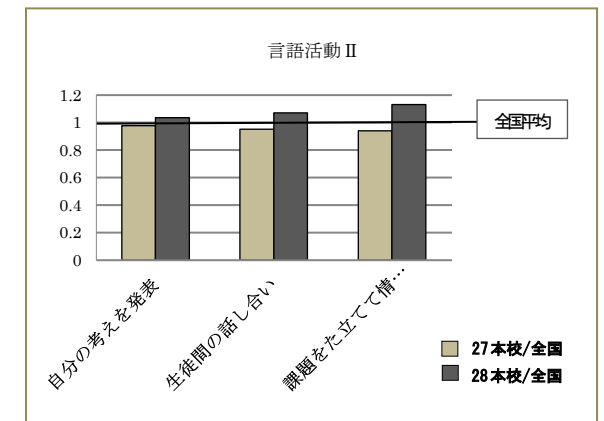
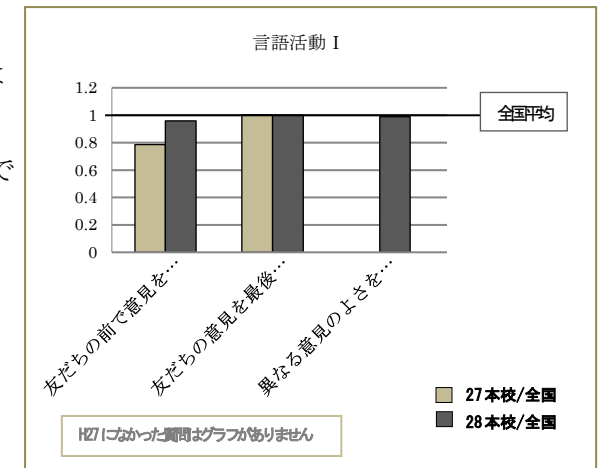
「地域や社会で起こっている問題等に関心がありますか」についての肯定的回答は 54.9% (全国 65.8%)、「地域社会等でボランティア活動に参加したことがありますか」についての肯定的回答は 60.7% (全国 70.2%)、「新聞を読んでいますか」についての肯定的回答は 11.8% (全国 18.3%)、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯・スマホ含)」についての肯定的回答は 85.3% (全国 87.48%)という結果でした。全国の平均と比べると吉中生の地域や社会への関心の低さ、関わる具体的経験の少なさがうかがえるとともに、社会の情報は新聞からよりもインターネットから得るものが多いこともうかがえます。



〈 言語活動 〉

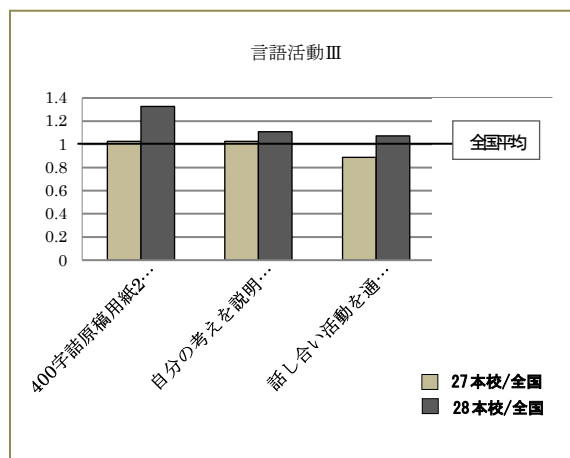
「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」についての肯定的回答は 48.1% (全国 50.2%)、「友だちと話し合うとき、話や意見を最後まで聞くことができますか」についての肯定的回答は 93.1% (全国 93.0%)、「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして話し合い、意見をまとめていきますか」については 57.8% (全国 58.4%) でした。全国と同じ傾向を示していますが、自分の意見を発表することについては、自信のなさが表れているのでしょうか。

1・2年生のときに受けていた授業についての質問の中で、「自分の考えを発表する機会が与えられていた」87.2% (全国 84.1%)、「生徒の間で話し合う活動をよく行っていた」83.3% (全国 77.8%)、「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいた」78.4% (全国 69.3%) と



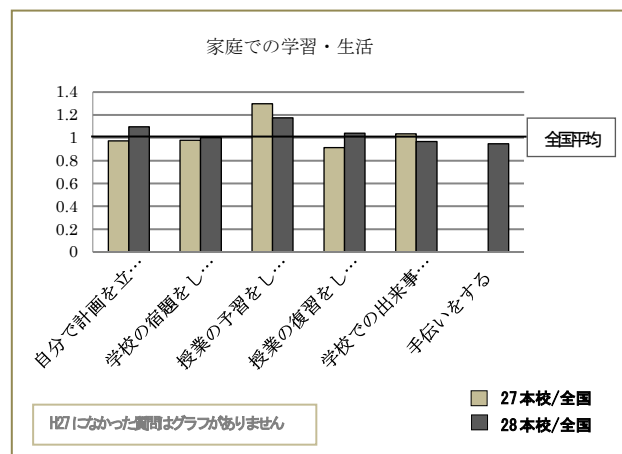
いう結果でした。授業の中で取り組む言語活動として情報収集、話し合い、発表、などの活動が増えてきたことがうかがえます。

「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」について、「難しい」と答えた生徒の割合は83.4%（全国62.8%）、「学校の授業などで自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しい」について、「難しい」と答えた生徒の割合は69.6%（全国62.8%）、「生徒間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる」についての肯定的回答は69.6%（全国64.8%）でした。説明したり表現したりすることに対する苦手意識がうかがえますが、交流することの効果については評価している様子が見えます。



〈 家庭での学習・生活 〉

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」についての肯定的回答は53.0%（全国48.4%）、「家で学校の宿題をしている」についての肯定的回答は90.2%（全国90.1%）、「家で学校の授業の予習をしている」についての肯定的回答は40.2%（全国34.2%）、「家で学校の授業の復習をしている」についての肯定的回答は53.0%（全国51.0%）でした。

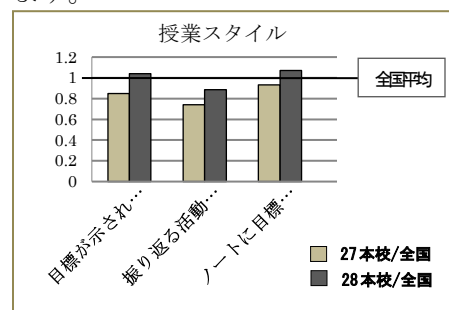


また、「家の人と学校での出来事について話す」についての肯定的回答は71.6%（全国74.1%）、「家の手伝いをする」についての肯定的回答は63.7%（全国67.2%）でした。

全国との比較においては吉中生が学校だけではなく、家庭においても学習している様子が見えますが、家庭で予習も復習もしていない人たちの割合が少なからず存在していること、全体的に二極化の傾向が見られることが課題であると考えています。

〈 授業のスタイル 〉

1・2年生のときに受けた授業の中で、「目標（めあて・ねらい）が示されていた」についての肯定的回答は88.2%（全国84.9%）、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」についての肯定的回答は55.9%（全国



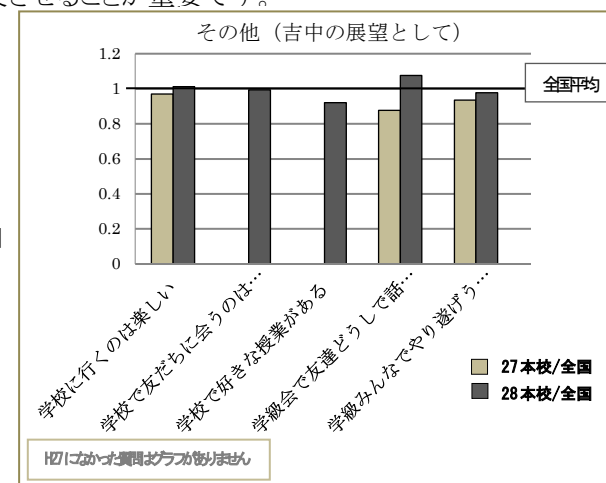
63.1%）、「授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いた」についての肯定的回答は82.3%（全国76.8%）であり、吉中での授業のスタイルが変わってきたことがうかがえます。

（4）おわりに

去る5月に岡山県倉敷市においてG7教育大臣会合が開催され「倉敷宣言」がなされました。宣言での「教育の果たすべき新たな役割」の中では「新しい時代に求められる資質・能力の育成」が強調され、その資質・能力とは「自ら新たな問いを立ててその解決をめざし、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくための力」とされています。そして、人工知能の開発を始め、技術革新には目覚ましいものがあり、今の小学生が大人になる頃に就く仕事の65%は現在は存在しない仕事であるとも言われ、今の中学1年生が受験する頃には大学入試制度の大変革もなされる予定です。そんな時代に対応した中学校教育内容のガイドラインとして、新しい学習指導要領が平成30年度には先行実施、平成33年度には全面実施が予定されています。

この間の学習状況調査（生徒質問紙）の結果からは、吉中生が現代若者の課題や特徴を、そのまま抱えている姿が見えてきています。指示待ち型人間から脱却し、まさに「倉敷宣言」の中で強調されている「新しい時代に求められる資質・能力」を備え、伸ばさせることが重要です。

生徒質問紙の中での「学校に行くのは楽しいと思いますか」についての肯定的回答は82.4%（全国81.4%）、「学校で友だちに会うのは楽しいと思いますか」についての肯定的回答は94.1%（全国94.7%）、「学校で好きな授業がありますか」についての肯定的回答は73.5%（全国79.9%）、「学級会などの時間に友だちどうして話し合っ学級の決まりなどを決めていると思いますか」についての肯定的回答は84.4%（全国78.4%）、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」についての肯定的回答は82.3%（全国84.2%）という結果でした。



今年度、吉中では「行きたい学校、学びたい授業」を教育スローガンとして掲げ、全教職員で実践的授業研究・改革に取り組んでいます。また、授業を始め、行事や取り組みの中で、意欲を育てること、自主性を高めることを目的のなかに組み込んで取り組んでいます。友だちに会うことが楽しみで、好きな授業がいくつもあって、行くのが楽しみな学校になるよう実践的研究と改革に取り組んでいきます。併せて、社会を形成する主体としての意識の育みにつながるよう、日常の学校生活で、お互いへの理解を深める活動や、学級や学年、或いは学年を超えた集団で話し合い、考え、取り組む行事を創造し、さまざまな経験を通じての集団づくりを進めていきたいと考えています。

どうか、今後とも本校教育活動にご理解とご協力をたまわりますよう、よろしくお願いたします。

